

サウジ増産も原油高続く OPEC生産余力に厳しさ ロシア減産分を補えず

サウジアラビアをはじめとする産油国の連合体が増産の拡大に合意した後も、原油価格にほとんど変化はみられない。石油輸出国機構（OPEC）と非加盟の主要産油国で構成される「OPECプラス」が増産拡大を決めた2日の会合以前の水準を上回る価格だ。「石油の中央銀行」と称されるサウジが原油価格高騰を止められないというのは何が起きているのか。

米政権による圧力にサウジが応じOPECプラスの他の国々と原油生産のペースを上げることで合意した。9月に予定していた供給拡大を7、8月に前倒しして日量約65万バレルの増産を行う。

増産の狙いは世界の経済成長を脅かし、米国のガソリン価格を高値に押し上げた原油高を抑えることにある。米議会の中間選挙を控え、ガソリン高騰はバイデン大統領の政治問題となっている。

実際の供給量が公表された増産量を下回る可能性がある。OPECプラスの下位の産油国は数カ月前から従来の生産枠を満たせない状態にある。米調査会社ラピダン・エナジー・グループは7、8月の増産は日量35万5000バレルにとどまるとみている。

国際エネルギー機関（IEA）は経済制裁が強化されロシアの産油量は2022年後半に日量300万バレル減る可能性があるとしている。OPECプラスの増産分を大幅に上回る減少量だ。

米国がOPECプラスに増産を求めたのは他の供給元、特に米テキサス州の生産者による供給拡大がはかどらないためだ。米国シェール産業は新たな油井の掘削を早めることに消極的で油価高騰による想定外の利益は増産投資よりも配当金と自社株買いに充てている。

制裁下にあるベネズエラの石油産業に原油輸出の拡大を促そうとする米国の働きかけはまだ実っていない。イランとの新たな核合意によって同国産原油が再び出回る見通しも立っていない。バイデン氏は環境を理由にカナダから米メキシコ湾に原油を運ぶパイプラインの建設認可を取り消したため、カナダに増産を求めるのは政治リスクを伴う。これらの国が新規供給に動いても、市場に出るには数カ月かかる。

サウジの増産拡大決定は原油価格高止まりの要因になってきたOPECの増産余力の乏しさを一段と深刻にする。

米モルガン・スタンレーによると増産余力は日量200万バレルという「歴史的な低水準」にある。

需要は増え続けている。中国経済が新型コロナウイルス対策の都市封鎖から抜け出せば、需要はさらに増大する可能性がある。米国ではこの1年でガソリンが6割も値上がりしたが、ドライバーによる需要は旺盛な状態が続いている。

コモディティー（商品）の「スーパーサイクル」が始まったという見方も出ている。供給拡大への投資が長年滞っていたところに、各国のコロナ対応景気刺激策の下での新たな消費の急増が重なったという状況だ。

米政権は戦略石油備蓄を放出し石油会社による価格のつり上げを非難し大気汚染に関する規制の一部を緩和した。連邦燃料税の課税停止も取り沙汰されている。いずれもガソリン価格を押し下げて消費者を原油高の影響から守る狙いがあり、燃料の需要を抑えるところか促す可能性がある。

需要が減少に転じるまでは価格高騰が収まりそうにない。だが、原油価格はこの2年間で500%超上がったとはいえ、実質でも名目でも08年の過去最高値を下回っており、さらに上がる可能性があるという複数のアナリストは指摘している。モルガン・スタンレーのアナリスト陣は7～9月期に1バレル150ドルに達する可能性もあるとしている。だが、もっと急に価格高騰が収まるパターンが現実味を増している観がある。景気が後退して世界経済が収縮するとともに、石油需要がしぼむという警戒すべき事態だ。

ウメモト インフォメーション

2022年6月10日

担当 坂田

東レは、新たに開発した無溶剤かつ水洗浄可能な水性インキ技術を用いて、軟包装（フィルム、パッケージ）印刷工程における完全VOC（揮発性有機化合物）フリー化と、省エネルギー化によるCO₂大幅削減を両立できる「軟包装水なしオフセット印刷システム」を開発した。

軟包装印刷物市場は、世界的な人口増加を背景にして年率3%以上で成長を継続している。現在、軟包装印刷において主流のグラビア印刷（凹版）は、有機溶剤を含むインキを大量に使うことから、PM_{2.5}（微小粒子状物質）による大気汚染の原因となるVOCを多く排出することに加え、有機溶剤の加熱乾燥や排気

第21回GSC賞

奨励賞

VOCフリー・CO₂削減を実現する軟包装水なしオフセット印刷システムの開発

東レ

井上武治郎氏、辻祐一氏、小清水昇氏
河合由里香氏、亀井隆幸氏

燃焼処理に膨大な電力を使用することによるCO₂排出が地球温暖化の観点から問題となっている。さらに、印刷作業現場におけるオベレートへの健康被害など労働環境問題や、防災対策の観点からも有機溶剤を使用しない新たな印刷方式が求められている。

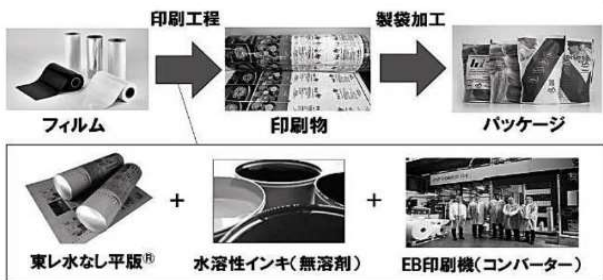
そこで東レは、印刷工程

において有機溶剤を全く使用せず、かつ消費電力量が少ない新たな印刷方式の取

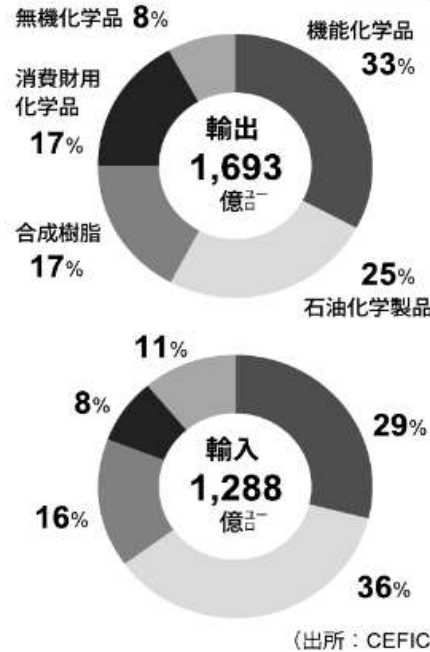
新規水溶性インキ技術を適用

装分野に新規展開を可能とし、世界各国の印刷会社・コンパターにて基本的な性能を実証して、採用に向けた評価が最終段階まで進んでいる。

今後も市場が拡大していく軟包装印刷業界において、東レが開発した新規印刷方式は、大気汚染、地球温暖化、労働環境、防災対策など、様々な効果が期待され、持続可能な社会の実現に貢献できる技術である。GSC適合度、社会的価値なども高いと認められたことから、GSC賞奨励賞にふさわしいと認められた。



欧州の化学品輸出入額と製品別比率
(2020年)



欧州化学業界

調達多様化へ「緊急行動」を

欧州の主要化学企業で構成する欧州化学工業連盟（CEPIC）はこのほど、原料調達先の多様化や代替原料の開発に向けて関係者が緊急行動を取る必要があるとの認識で合意したと発表した。ウクライナ戦争で化学品原料の対ロシア依存が改めて顕在化し、化学産業の原料・用役コスト高騰が問題となっていることを受け、中長期的競争力の維持向上を図る。

CEPICは6月初頭、EU当局関係者や他産業の代表者を招き、リモートイベントを開催。「ロシアのウクライナ侵攻によって銅やニッケル、チタン、パラジウムといった原材料について、欧州産業界のロシア依存が改めて浮き彫りになった」との認識を示した。同イベントに参加した欧州委員会成長総局のフーベルト・ガンブス副総局長は、同委が欧州の産業基盤強靱化に当たって原材料の循環（リサイクル）性や利用効率の向上、域内での原材料自給率向上を重視していると説明。またナミビアからの電力輸入開始や、E

ロシア依存 浮き彫りに

EU非加盟国であるノルウェーからの石油・ガス輸入拡大に向けた交渉を行っていることなどを例に挙げ、第三国からの持続可能な責任ある調達」を通じた原料やエネルギーの供給源多様化が必要との認識を示した。

欧州国際政治経済研究所（ECIPE）シニアエコノミストのオスカー・ギニア氏は、それぞれが得意な産業分野に特化でき、結果的に経済成長をもたらすという国・地域間の経済依存関係のメリットを指摘する一方、リスク回避のため、世界各国が原料調達先・市場としての他国・地域への依存を軽減する政策を打ち出していると説明。欧州も原料備蓄や国内生産の拡大、原料供給源の多様化と

EU非加盟国であるノルウェーからの石油・ガス輸入拡大に向けた交渉を行っていることなどを例に挙げ、第三国からの持続可能な責任ある調達」を通じた原料やエネルギーの供給源多様化が必要との認識を示した。欧州国際政治経済研究所（ECIPE）シニアエコノミストのオスカー・ギニア氏は、それぞれが得意な産業分野に特化でき、結果的に経済成長をもたらすという国・地域間の経済依存関係のメリットを指摘する一方、リスク回避のため、世界各国が原料調達先・市場としての他国・地域への依存を軽減する政策を打ち出していると説明。欧州も原料備蓄や国内生産の拡大、原料供給源の多様化と

ウメモト インフォメーション

2022年6月10日

担当 坂田

価格修正ダイジェスト



(5月30日～6月3日)

とくに表記のないものは1kg当たり

□2軸延伸ポリスチレンシート・サンディックが6月20日から47円以上値上げ。

□無水マレイン酸・三菱ケミカルホールディングスグループが6月1日から30円値上げ。

□デキスタイル

・東レが7月新規契約分から婦人

・紳士衣料、スポーツ衣

料、ユニフォームおよび

裏地・資材の各分野にお

けるデキスタイル全品番

を現行のダブル入り価

格比10～20%引き上げ。

□高分子凝集剤

・MTア

クアポリマーが7月1日

からDA系カチオン凝集

剤、DM系カチオン凝集

剤、アニオン・ノニオン

凝集剤を70円以上、エマ

ルジョンを50円以上、ポ

リアミン系凝集剤を40円

以上値上げ。

□酸化チタン

・石原産業

が7月1日からアジア・

パシフィック地域で1トン

当たり300kg値上げ。

□スチレンモノマー

・デ

ンカが7月1日から6円

値上げ。

□フインカーボン

・東

海カーボンが7月からグ

ループ会社分を含め現行

比10%値上げ。

□フェノール樹脂など

・DIC北日本ポリマが

6月15日からフェノール樹脂の固形品を45円、尿素メラミン樹脂の溶液を15～30円値上げ。

□ゴム加硫剤

・鶴見化学

工業が7月1日から粉末

硫黄製品の全品種を20～

24円値上げ。

□エチレン酢酸ビニル共

重合体エマルジョン

・住友化学が6月3日から

SMICフレックスを26円

値上げ。

□耐熱性ポリアミド樹脂

・クラレが6月15日から

ジュネスタのファイバー強

化銘柄を国内で30円、海

外で0.3kg、ガラス織

維強化ハロゲン難燃銘柄

を国内で80円、海外で0

・8kg、ガラス繊維強化

ノンハロゲン難燃銘柄を

国内で50円、海外で0

・5kg値上げ。

□エチレンアミン

・東ソ

ーが7月1日から現行比

50%以上値上げ。

□ステアリン酸など

・新

日本理化学が6月15日から

ステアリン酸を150円

以上、オレイルアルコール

を300円以上値上

げ。包装材料は20円上乗せ。

□顔料

・DICが7月1

日からグループが取り扱

う製品を現行比最大15%

値上げ(一部製品は改定

幅が異なる)。

□安息香酸

・伏見製薬所

が7月から安息香酸、安

息香酸ナトリウムを60円

以上値上げ。

□ポリエチレン重袋など

・日本マタイが6月10日

からポリエチレン重袋を

現行比10%以上値上げ。

□ラミネート製品、樹脂加

工品の実施時期と改定幅

は個別に案内。

ウメモト インフォメーション

2022年6月10日

担当 坂田

DIC オンラインショップ刷新

オンライン ショップ刷新

DIC

DICは、藻類培養技術を生かした機能性表示食品やサプリメントなどのヘルスケア製品を販売するオンラインショップを全面刷新した。「体に、心に、地球に、たしかな彩りと快適を。」をコンセプトに、レイアウトと機能を一新。製品ごとのオンラインショップを統合し、同一サイト内で異なる複数の製品の購入ができるようにした。製品検索の操作性が向上したほか、生活に役立つ情報なども発信していく。